

「あたしの...経歴？言う必要あるか？」

——変異種の症例は貴重なので。情報は何であれ欲しいんですよ。

「役に立つとも思えないけどな...ま、そうしろってんなら話すけどさ」

「先に言っておくが、あたしは頭も記憶力も悪いから、忘れてることも多々ある。文句言うなよ」

まず、あたしの生まれの話だ。

ロシア人とジャパニーズのハーフ。

観光都市■■■■で産まれて、18歳までそこで育った。

父親はロシア人。ルカ・レヴィタン。

正直ほとんど覚えてない。何しろあたしが5歳の頃に死んじゃったらしいからな。

だけど、悪くない...いや、いい父親だったとは覚えてるよ。

次に母親。父親が死んだあとに別の男作って出ていった。名前は覚えてない...というか思い出したくもないから写真から何から全部捨てちゃった。

...まあ、あの街じゃそのくらい珍しくもないみたいだったけどな。

んで——、6,7歳の頃だろうな。クソビッチが消えて、あたしはスリで生計を立ててたんだ。

なにしろ観光都市だ。バカンスに来た奴らの財布から失敬するくらい何でもなかったんだよ。

ああ、いちいち犯罪がどうか言うなよな？あの街で生きてる人間で真っ白な人間なんて良くて1%ぐらいだ。

話が逸れたな。

物盗りをしてたわけなんだが、ある時ギャングにスカウトされて入ることになった。

まあスカウトとは言ったものの実際は保護だよな。いくら手際が良かったって所詮はガキだ。どこかで必ずやらかす。その前に手元に置いて——立派なヒットマンに教育する、って寸法。

そんなわけであたしには教育係がつくことになった。オルカ・ヴォルクタツツー、あたしと同じでロシアにルーツのある男だった。

オルカはあたしにギャングとしてのやり方だけでなく、人間としての生き方も教えてくれたんだ。

あの頃は「オルカの兄貴ー」ってずっと言ってたが、あれは兄貴ってより父親だったな。

あたしのもう一人の父親、オルカはそういう存在だった。

そっからしばらくはギャングとして宜しくやってた——少なくとも、10年くらい。その間にお前らの言うオーヴァードってやつにもなった。

んだけど問題はいつから使えるようになったとかまっつたく覚えてないんだよなあ...

シマ争いで弾がなくなった時に弾がなくても銃が撃てた、とかそんなのが始まりだった気はする。それでももう少し頑張ってみたらそもそも銃がなくても銃を作れた...みたいな。

正直分身も特別なことをした覚えもないんだよ。

数で押されてて人が足りねえ。ならあたしが3人分になって撃つ。そういう無理を通す力をいつの間にか身につけてたってぐらいの感覚。

もうちょっと詳しく？最初に言っただろ、「忘れてることもたくさんある」って。

思い出したら言うけど、本当に思い出せないんだよ...

……で、18の時。これは話さなくていいよな。
てか話させないでくれ。あたしの中であの時の熱はまだ消えてない。それをわかってくれ。

——助かる。
それからあたしは自分がいたギャングにも追われる身になった…「過ぎた力は均衡を崩す」って
言われたっけな。
今なら分かるよ。
あの瞬間、あたしは間違いなく世界の敵だった。

とはいえ、10年の情けはあったんだろうな。
あたしの端末にその日の夜に出る船のチケットが届いてたんだ。
ここを出ていくならそれで手打ち、ってわけだ。
無論、あたしはそれに乗るしか無かった。

——だけど、それじゃ終わらない。
お前ら、UGNがいたからだ。
18年生きてきて初めて島を出て、一人になって…
しばらくは船が着いた街で酒飲んで潰れてたっけな。
そのうち、誰かに監視されてることに気がついた。
最初はあの島の奴らだと思ってたんだ。
だからあたしは帰還の意志がないことを示すためにアメリカに渡って働き出した。

それでも監視は止まなかった。
次は…ロンドンだったかな？孤児院でシスターの真似事をしたのを覚えてるよ。あれはあれでいい経験だったが…やっぱり子供は苦手だな。
ここで監視してんのが島の奴らじゃないって気がついた。そもそもあいつらは一つのギャングが消えて空白になったシマを分割するので大わらわだったろうしな。

そっからは特定の国に留まらずにどんどん移動してたはずだ。気配は感じるのに姿は見えない、そんな監視者がどこまでついてくるのか興味があった—つてのもあるんだけど、オルカが言ったことを思い出してさ。世界を見てみたくなった。

初めてお前らと撃ち合ったのは中国…だよな。
酔っぱらいの喧嘩に巻き込まれるなんて妙な形だったが、初めて姿を掴んだのはあの時だ。
すげえ驚いたんだぜ？あたしと同等に撃ち合える相手がいる…なんて、島にいた頃はあり得なかったからな。

そっから東南アジアを撃ち合いながらどんどん渡って行って…
最後に、日本(ここ)に来た。
クソ女の国だ。一生行くことはないと思ってたけど…運命の巡り合わせってやつか。
そっから先は話す必要ないよな。

これがあたしの全部。
ギャングしてる間の内容薄すぎー、とかは受け付けないからな。
マジで覚えてねーんだ。

そうか？それならよかったよ…

20xx年mm月dd日 UGN日本支部にて
UGNエージェント レヴィタン 雪泉 ルキニシュナとの会話記録
担当者:■■■■

補遺:

記録中、対象の生体および精神のデータを取得していた。

生体データには異常を認めなかったものの、■■■■でのギャング生活について語っている際に精神データに不自然な変調を観測。

恐らく何者かの手によって当該期間の記憶を加工されているものと思われる。

加工を解除できれば覚醒時及び変異種としての記憶を回復させられる可能性あり。

継続的調査を行うものとする。